

ゴルフボール衝突による外傷性脳底部クモ膜下出血 (TBSAH) の剖検例

著者	渡部 加奈子, 鈴木 加奈子, 野澤 秀樹, 南方 かよ子, 鈴木 修
雑誌名	日本法医学雑誌
巻	57
号	1
ページ	105
発行年	2003-03-14
URL	http://hdl.handle.net/10271/1863

P-125 ゴルフボール衝突による外傷性脳底部クモ膜下出血 (TBSAH) の剖検例

鈴木 (渡部) 加奈子, 野澤秀樹, 南方かよ子, 鈴木 修 (浜松医大)

【緒言】 ゴルフボールが頸部を直撃し, 急死した珍しい事例を報告する。

【事例】 50歳・男性。仕事の接待でゴルフプレー中, ミドルホールにて, 加害者が打ったゴルフボールが被害者の左側頸部に直撃した。倒れた本屍は救急搬送されたが死亡が確認された。

【解剖所見】 外表上, 顔面はうっ血する。眼瞼結膜に多数の溢血点を認める。左側頸部に, 直径約3 cmの円形の紫色皮膚変色を認める。内部にて心臓表面に溢血点を認める。左側頸部の皮膚変色部では, 皮下軟部組織内に鶏卵大の領域に出血を認めるが, 頸椎に骨折・脱臼は認めない。脳底部に著明なクモ膜下出血を認める。左右椎骨動脈に注水検査を行い, 椎骨動脈分岐部より約5mm下方の部位に右椎骨動脈の破裂を確認した。周囲に血腫を認めた。組織検査で, 破裂部 (約3 mm) では椎骨動脈の内膜・中膜・外膜全層が破れていた。さらに椎骨動脈分岐部より右椎骨動脈の外膜中で剥がれている像 (約2 cmの長さ) を認めた。

【考察】 頭部や顔面に鈍体による外力を受け, 椎骨動脈が損傷しTBSAHが生じ死亡する例は少なくない。しかし多くが, 外力を受けた同側の椎骨動脈に損傷を受けている。本事例では, 外力を受けた側と対側の椎骨動脈損傷によりTBSAHが発生し死亡した。本損傷が発生したメカニズムは, ゴルフボールという比較的小さい鈍体が, 高速で左側頸部に激突した際, 頭部の慣性により頭部が左方に屈曲し, 対側の右頸部が過伸展し, 右椎骨動脈が破裂したものと思われた。また, 椎骨動脈が頭蓋内へ進入する部分の解剖学的構造を考慮すると, 硬膜と椎骨動脈外膜が固定されており, 右頸部が伸展した際に外膜が剥がれたものと推定された。